

epoch

エポック No89

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～
平成26(2014)年12月 発行



第10期第3回 概要報告

9月25日、第3回生涯学習推進委員会議が開催されました。今回は、第1回、第2回会議を通して行ってきた「(仮称)生涯学習大学の創設」に向けた協議の内容を再確認し、「(仮称)生涯学習大学中間のまとめ」を取りまとめました。

また、前回に引き続き、生涯学習大学の事例紹介として中野区の「なかの生涯学習大学」を取り上げ、千代田区版の生涯学習大学の創設へ向け、より具体的な検討を行いました。委員からも活発な意見・質問が挙がり、委員同士の共通認識が深まりました。

以下、概要をお伝えいたします。



(仮称)生涯学習大学 中間のまとめ



1. (仮称)生涯学習大学について



●第9期 意見書の提言内容

- ・「コーディネーター養成コース」「ボランティア養成コース」「千代田学コース(観光案内ボランティア養成も含む)」の3コースを設置する。
- ・各コースはおおむね2年程度とする。また、卒業生・修了者がボランティアとして各種人材バンクに登録し、コーディネーターとして活躍できるよう、学習成果発揮の場を提供する仕組み作りを行う。



●これからの方向性

- ・現在千代田区立九段生涯学習館にて実施している「生涯学習コーディネーター養成講座」をより発展させたモニターコースを平成27年度に実施し、検証作業を行った上で、平成28年度に「コーディネーター養成コース」の1コースで本格開校する。

2. 今後の計画案

●モニターコースの実施について

平成27年4月
(仮称)生涯学習大学事務局開設

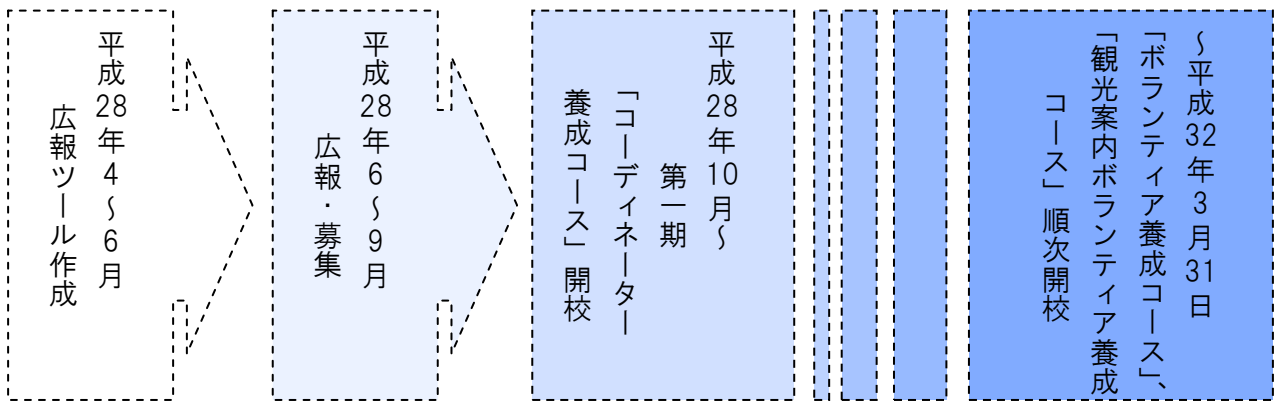
平成27年5～6月
広報ツール作成

平成27年7～9月
広報・募集

平成27年10～12月
モニターコース実施(全8回)

平成28年1～2月
検証作業

●本格開校に向けて



質疑応答・意見交換など

○現在九段生涯学習館にて実施している「生涯学習コーディネーター養成講座」参加者の、区内・区外の人数内訳はどの程度か。

⇒参加者約20～25名のうち、区内在住者・在勤者の割合はほぼ半数ずつとなっている。また在勤の参加者は、とくに積極的な様子が見られる。

○「ボランティア養成コース」の具体的な内容は決まっているのか。

⇒「ボランティア養成コース」と「観光案内ボランティア養成コース」については、言葉の意味・内容が幅広く、整理が必要である。また、開校後どのようにコースを展開していくのかについても検証を行っていききたい。今後、第10期の会議の中で意見を出し合い、議論・検討していく。

○推進委員自身も実際の現場を見て、現行の講座を体験した方が、イメージが湧きやすいのではないか。そういった見学も行いたい。

○今年度は、生涯学習大学の制度設計部分を主に議論していきたい。それを踏まえて、来年度は検証作業を通した報告へ向け、現場の見学や体験などを加味した議論を行っていききたい。



○平成27年度のモニターコースに参加した受講者は、平成28年度開校の「コーディネーター養成コース」に優先的に参加していただくようなイメージなのか。

⇒モニターコースは全8回を予定しているが、(仮称)生涯学習大学のコース設計は1～2年のカリキュラムとなるため、モニターコース受講者にも積極的に参加を促し、より率先して中心的に活動していただきたい。



○モニターコースは、2年間で想定している(仮称)生涯学習大学をあくまでコンパクトに8回でまとめたもので、「コーディネーター養成コース」とは全く異なった試験的なものとなる。

○(仮称)生涯学習大学の最終的な具体案の取りまとめは、いつ頃を目標に行っていくのか。

⇒本格開校は平成28年度の秋を目指している。平成27年度中に、生涯学習大学としての狙いと目的、コース内容、対象とする受講者等がある程度まとめていきたい。





中野区「なかの生涯学習大学」について

1. 「なかの生涯学習大学」概要

●設立の経緯

- ・1973年(昭和43年)にスタートした「ことぶき大学・大学院」が前身で、2010年(平成22年)より、現在の「なかの生涯学習大学」に移行した。



●目的

- ・自己啓発をとおして、いきがいをもち、地域の中でライフスタイルを創造する。
- ・自らの豊かな経験を活かして、ともに学びながら、地域のために活動する意欲を培う。
- ・地域で活躍できるよう、必要な知識、技術を高め、地域社会の主体的参加の促進を図る。



●対象

- ・中野区在住の方
- ・申込み時の年齢が55～79歳の方
※ただし定員に達しない場合は55歳未満の受け入れも認める
- ・年間を通じて健康な状態で受講できる方
- ・社会情勢や地域での暮らし、活動に関心のある方
- ・他の受講生と協力して運営に関わることのできる方
- ・過去において「なかの生涯学習大学」「ことぶき大学」在学経験のない方



●実施概要

- ・定員：各学年200名
- ・受講期間：3年間の進級制
- ・年間受講料：5,000円
- ・授業回数：年22回(1回あたり120分授業)
- ・プログラム：
 - 1年→地域活動に必要な基礎学習を行う
 - 2～3年→学校支援、文化歴史、福祉、国際交流などのコースを設け、地域活動に結び付くよう実践的な学習を中心に行う



質疑応答・意見交換など

- 「なかの生涯学習大学」の入学希望者は例年どの程度いるのか。また、修了者の知識・経験をどのように地域還元しているのか。

⇒ほぼ定員に近い受講者が集まっている。修了者が福祉ボランティアやシルバー人材センターとも連携していくことを目標としているが、実際はなかなか活動に結び付けられていない点が課題となっている。

- 現在のプログラムで、参加率はどの程度なのか。

⇒入学者の約7割が卒業しているので、参加率は悪くないと思われる。授業の時間帯の設定は、長年やってきたプログラムの設定で、一番参加率が高かった日時を設定しているとのこと。



- 「なかの生涯学習大学」の授業は年22回の開催となっているが、平成27年のモニターコースは3ヶ月で8回を予定しており、比較しても少し回数が多い印象を受ける。参加者は集まるのだろうか。

⇒現在九段生涯学習館で行っている講座等の参加率を見ても、3ヶ月で8回というのは決して多すぎる設定ではない。また、検証の材料をできるだけ増やしたいという点も考慮し、8回の開催を予定している。

- 中野区は千代田区よりも人口が多いため、受講対象を区民としているが、千代田区の場合は、昼間人口、夜間人口の比率から、在勤者・在学者も視野に入れていく必要がある。

- 中野区は対象を55歳以上とし、リタイア世代を主としている。現役世代とリタイア世代の交流の場としても活用したいので、時間帯や曜日の設定は今後議論したい。

- 中野区と似たような形でプログラムを組むとしても、千代田区の場合はテーマや講師等、既存の事業を活用できる。



ーリレー随筆 No.3ー

「織りなす」

松井 千恵子

生涯学習推進委員二期目を務めます。第9期の意見書としてまとめられたテーマは「学びを紡ぐ新たな仕組み」でした。紡ぐという言葉がとても印象に残りました。織物の工程になぞらえて想像すると、紡ぎだされた糸が経糸・緯糸となって組み合わせられ織りあがっていく様子が思い浮かびます。(織物に関しては経をタテ、緯をヨコと表すようです。)

新たな仕組みを形づくるにはまだまだ課題は多いと思いますが、美しく強い生地に仕上がるようなイメージを持って関わっていききたいと思います。きっと様々な素材や色の物が出来上がる事でしょう。この文章をしたためている間、中島みゆきの「糸」という歌が頭の中を廻っていました♪

私が所属している昌平コミュニティスクールでは、イベントの主催もしています。昌平童夢館にて寄席、バレーボール大会、音楽祭、いずれも10年以上続いている企画です。

楽しさと大変さと、程よいバランスでこれからも続けていけたらと思っています。



○最近は自治体同士の交流も多く、事業の際、他自治体から参加者を募ることもある。区の中だけでなく、他区の生涯学習大学と単位交流も行えたらいい。



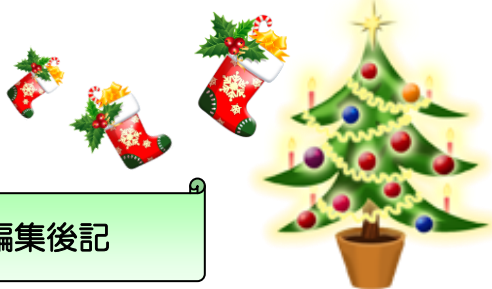
○授業を受けなかった場合や参加できなかった際の救済措置も必要ではないか。在勤者は忙しい方も多いため、休学や復学といった対応もできるようにしていきたい。

○在勤者・在学者も参加しやすいようなコース設定、時間帯を決める必要がある。また、年齢層や性別も分析した上で検討した方が、より参加しやすい形になる。

○コース設定は、ボランティア養成のためだけでなく、健康維持のためのコースやパソコンの使い方等を学べるIT系のコースなど、現代的な課題も合わせて幅広く考えたい。

○現在は「(仮称)生涯学習大学」と仮の名前が付いているが、ターゲットとする年齢層が幅広いのであれば、大学名を決定する際にも配慮が必要と考える。

○区民に対して、生涯学習大学の必要性を引き出すようなアンケートも実施できたらいい。実施のタイミングや対象について、今後検討していきたい。



編集後記

今回のエポックは、「(仮称)生涯学習大学 中間のまとめ」と、「なかの生涯学習大学」の事例を中心に、委員のさまざまな意見をご紹介いたしました。また、お忙しい中リレー随筆をお引き受けくださった松井委員、誠にありがとうございました。心から御礼申し上げます。

次号エポックも、よろしくお願いたします。

【編集／発行】

千代田区 区民生活部 文化スポーツ課 〒102-8688 千代田区九段南 1-2-1

TEL 03(5211)3632 / FAX 03(3264)3988

E-mail bunkasupotsu@city.chiyoda.lg.jp